

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲出土した弥生時代の弥生土器(右)と古墳時代の土師器や須恵器(左)〔「池内遺跡」より転載〕



▲天美北小学校生徒による池内遺跡現地見学会(平成28年1月 松原市教育委員会提供)



▲竣工記念碑(天美東3丁目・天美東第二公園) 平成30年4月建立

天美東土地区画整理事業に伴い、弥生時代～平安時代の遺構発見

十一月、大型ショッピングモールのセブンパーク天美がオープンして二周年になり、数々のイベントが行われました。この間、多くの人々が訪れ、天美地区にとどまらず、松原市全域に賑わいをもたらしています。

オープン直後から、市ではセブンパーク天美を舞台に、地域活性化包括連携協定を締結して、地域活性化や市民サービスの向上。地産地消と市産品の販路拡大。地域への参画や市民協働の推進。安心安全なまちづくり。市政や観光情報発信などで連携を図っています。

セブンパーク天美が建つ場所は、池内地区で、現在は天美東の町名となっています。昭和四十年代前後までは、近鉄河内天美駅北西に集落が形成されており、線路東側の阪南大学の東方は池内の田畑やため池が一面に点在していました。

平成二十三年(二〇一一)、天美B地区と名付けられて、区画整理事業が行われますが、地権者らは、府や市などの協力のもと、「人が行き交い、賑わいあふれた、持続可能な複合拠点都市の実現」をまちづくりのコンセプトとして、勉強会を始めました。

平成二十七年(二〇一五)に松原市天美東土地区画整理組合が設立され、四年の歳月を経て事業が完了し、令和元年(二〇一九)七月、組合は解散し

ました。その間、天美東第二公園がつかられ、平成三十年(二〇一八)四月には、「松原市天美東土地区画整理事業竣工記念碑」が建立されました。

土地区画整理事業の北側では、阪神高速道路大和川線が開通し、西側には、都市計画道路の府道大阪河内長野線も新設されました。同線の東側に接して令和三年十一月にセブンパーク天美がオープンし、道路西側にも住宅地・商業業務地として、商業施設が開業していったのです。

さて、開発された天美B地区は、池内遺跡とよばれる弥生時代から近世にかけての遺跡の南東部にあたりました。遺跡全体の範囲は天美北一・六丁目と天美東三・五丁目に所在し、西端は阪南大学を含む近鉄線手前、東端は三宅西に接する今井戸川です。東西約九〇〇m、南北六五〇mに及びます。

これまでの調査で、二二〇〇年前の弥生時代前期の環濠集落や水田、一二〇〇～一〇〇〇年前の平安時代の集落などが見つかっています。

今回、松原市教育委員会は(公財)大阪府文化財センターと共同で平成二十七年～二十八年、二期に分けて面積約一六三〇〇㎡を発掘調査しました。阪神高速道路に接するB地区北端から南北一〇〇m、東西一五〇mの範囲です。

特に、平成二十七年に行われた一期では、一九〇〇年前の弥生時代後期から一七〇〇年前の古墳時代中期の土坑

群が見つかりました。ここからは井戸と思われる遺構が検出され、井戸に投げ込まれ、祭祀に使われたと推測される土器類も含まれていました。

同時に、古墳時代の土坑からは、祭祀に使われたと思われる白玉、双孔円板土製勾玉なども見つかっています。

その後の平安時代の遺構として、集落があったと考えられる掘立柱建物や土坑、溝、轆なども見つかり、人々が暮らしていたと思われます。現場は、西は府道大阪河内長野線に接し、北はセブンパーク天美の北西駐車場にあたります。B地区以外の阪南大学近くの調査でも平安時代の掘立柱建物や溝、井戸などが検出されており、広範囲に村が広がっていたようです。

この時の成果を、松原市教育委員会や大阪府文化財センターは平成二十八年一月十六日、一般向け現地説明会を行い、一八〇人も参加者が集まりました。また、同月十八日には、近くの天美北小学校三・四・五年生にも現地見学会を催し、子どもたちに郷土への関心を持ってもらったのです。

【参考文献】松原市文化財報告第1冊・大阪府文化財センター調査報告書第28集「池内遺跡」二〇一七年七月～松原市天美東土地区画整理組合「南部大阪都市計画事業 松原市天美東土地区画整理事業誌」令和元年八月～松原市教育委員会・大阪府文化財センター「池内遺跡発掘調査現地説明会資料」平成二十八年一月